



情報通

2006. May 5月号

発行日：平成18年5月1日

発行：東京税理士会
情報システム委員会

題字：金井塚 清 (豊島)

XBRLが開く新世界

—見えてきた次代の融資実務 (その2)

本紙情報通では、昨年来新しい財務データの形式としてXBRLという方式に注目し、3回にわたり紹介の記事を掲載してきました。先月号では、私たち税理士が作成した財務諸表がXBRLのデータとして変換されると具体的にどうなるか?、つまりXBRLデータが関与先及び税理士事務所から銀行に渡った場合、その後の融資実務が、これまでの紙ベースのデータの受け渡しに比しどれほど効率的に変貌するか、実務に沿った形でその概要を解説しました。今月号ではこれをさらに具体的に紹介致します。

前回に引き続き、XBRL Japanの会員で、同システムの開発に重要な役割を担われている(株)日立製作所様並びに(株)日立システムアンドサービス様より原稿をご提供いただきました。ご多忙の折、私ども税理士向けに噛み砕いた分かりやすい内容としていただきこの場を借りて厚くお礼申し上げます次第です。

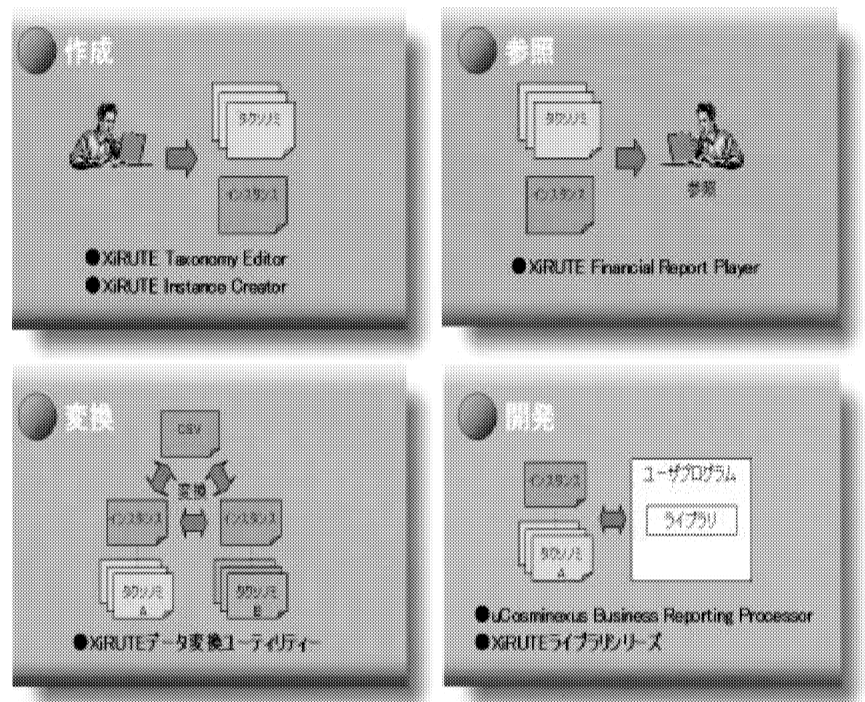
〔XBRL関連製品の紹介〕

これまでXBRLの概要から適応例までをご紹介してきましたが、ではXBRL文書をどうやって扱えばいいの?と疑問が生まれるかもしれません。そう。生まれたはずです。それではXBRL文書を扱うための日立のXBRL関連製品を簡単にご説明させていただきます。現在、日立が提供しているXBRL関連製品は大きく分けて生成・変換・参照・開発と用途別に4つに分類されています。ここでは生成・参照に関する製品についてご紹介します。まず生成のカテゴリではXiRUTE Taxonomy EditorとXiRUTE Instance Creatorがあります。この製品はXBRL文書を作成するためのもので前者はタクソノミを後者はインスタンス文書を生成することができます。

続いてXBRL文書を参照するための製品XiRUTE Financial Report Playerをご紹介します。この製品はXBRL文書をMicrosoft Excelで表示するためのもので、テンプレートを利用してさまざまな帳票や分析用レポートにあわせてXBRL文書を表示できることが特徴となっています。Microsoft Excelベースですので、グラフ表示やMicrosoft Excelの計算式など使い慣れた機能も利用することができます。

なお、XiRUTE Instance Creatorについては試用版をダウンロードすることが可能ですので、是非下記のURLにアクセスしてください。

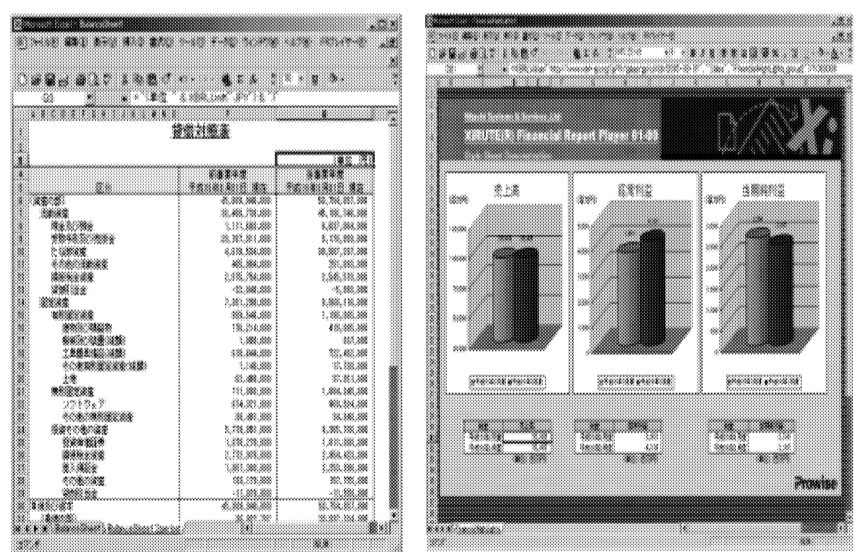
URL <http://download.hitachi-system.co.jp/xbrl/information.asp>



【図4 XBRL関連製品】



【図5 XBRL作成の画面】



XBRLデータを財務諸表スタイルで表示

XBRLデータを財務分析スタイルで表示

【図6 XBRL参照の画面】

〔普及状況〕

財務情報のXBRL化の対応は、国内のみならず、世界的な潮流となっています。XBRL JapanのFACT BOOK Ver7.1(2005年11月発行)によると、XBRLのコンソーシアム活動は2005年10月現在、35カ国以上300を超える参加企業・団体により開発・普及活動を推進しています。そして、北米、欧州のみならずアジアの諸国でも、さまざまな公的機関が採用を決定しています。

〔おわりに〕

大手企業による粉飾決算事件などが相次いだことから端を発した企業への不信感を背景に、財務情報の透明性・流通性の確保の要求は膨らむ一方です。XBRLはその透明性・流通性の確保に欠かせない技術であり社会のインフラとして急速に根づこうとしています。東京証券取引所のTD-NETや国税庁(電子申告)ではすでにXBRLが採用されており、金融庁でも2005年12月28日に「有価証券報告書等に関する業務の業務・システム最適 (右頁へつづく)

前頁から

化計画(案)」を公開し、具体的なXBRL導入方針を公表しています。また、海外では米国SECがEDGARへXBRL形式の財務情報の任意提出制度を2005年4月より導入しており、XBRL文書による財務報告が始まっています。

このような世界的な流れを受けてますます身近になると思われるXBRL。税理士の皆様にも本記事を機に便利な道具として認識し、有効活用していただければ幸いです。

(XBRLは、XBRL Internationalの商標であり、そのホスト組織であるAmerican Institute of Certified Public Accountantsが登録・保有しています。)

Microsoft、Microsoft Excel、Microsoft Word、は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。)

※無償独占を失う日 政府は、5カ年計画で、「これまで進めてきたIT化と構造改革の仕上げの取り組みとしての基盤整備する。電子行政を実現し、安心して暮らしていける社会や世界最高の産業競争力をするためのITインフラへの投資こそが人口減少と高齢社会の日本が繁栄するための唯一の方法である。」としています。また、「改革には抵抗が伴うが、ひるむことなく21世紀を切り開いていく」という本気の構えで、行政手続きのオンライン申請率の目標は「50%」とされています。

そこで平成18年3月31日、IT戦略本部から「オンライン利用促進のための行動計画」が発表され、「『IT新改革戦略』の目標を達成するために、具体的な行動計画をたてて利用促進に取り組みます。」と述べられています。このなか「大規模法人の消費税、印紙税申告及び酒類製造業者の酒税申告について、平成20年度までの3年間に利用率50%となるよう重点的に取り組む。」という記載もあります。

また、この「オンライン利用促進のための行動計画」には、e-Taxの問題点の指摘に対する回答があります。

例えば、「税理士は希望すれば誰にでも電子証明書が交付されるが、納税者は証明書を新たに購入しなければならない。」という声に対し、「税理士会と協議し、一定の要件のもとに、納税者本人の電子署名について省略を検討する。」「添付書類を紙で提出しなければならないので、申告書を電子で出す意味がない。」等の意見に対しても「納税者利便の向上の観点から、次の場合(添付書類について第三者の電子署名を

XBRL 関連ホームページ

XBRL Japan

<http://www.xbrl-jp.org/>

(株)日立システムアンドサービス

<http://www.hitachi-system.co.jp/xbrl/>

(株)日立製作所

<http://www.hitachi.co.jp/XBRL>

本原稿の内容に関するお問い合わせ

(株)日立製作所 ビジネスソリューション事業部 山岸

メールアドレス: toshiyuki.yamagishi.zk@hitachi.com

付した上でオンライン送信。税理士関与の納税者について、税理士会とも協議の上、税理士による確認とスキャナ利用による添付書類のオンライン送信)に、第三者作成の添付書類そのものの送付を不要とする方向でシステム面を含めて検討を進める。」という具合に障害を取り払う提案があります。あるいは「e-Taxを積極的に行った納税者に対しては、例えば表彰のような、評価する仕組みを検討してほしい」とする希望にも「納税表彰の功績評価において、e-Taxの積極的な普及活動について十分に評価する。」と積極的な対応を見せています。このほか、「e-Taxの開始届に身分証明書を添付するのが煩わしい」という点は、すでに省略されています。また、「e-Taxの開始届がそもそもオンラインでないのはおかしい」という点については、現在、国税庁ホームページでオンライン申請可能となっています。

このように、利用促進を阻害する問題点はすべて改善の見通しが立ったと考えられます。この行動計画を作成した会議の責任者が、内閣総理大臣であることを忘れてはなりません。かなりの効力で国税庁を動かすことが予想されます。それでもe-Taxから眼を背ける税理士は、「利用促進を阻害する問題点」として、排除されるかもしれません。

つまり、当局は、**ダメなところは全部直した、さあどうしてくれる!**と言わんばかりなのです。この先もITを避けていると、「いや、電子申告に大まじめに取りかからないと大変なことになりますよ。」という、まさに警告が発せられたと認識すべきでしょう。

◆◆会員向けIT研修の申込みについて◆◆

パソコン等の研修事業を実施している「中野キャリアスクール」の協力のもと、主にパソコン操作方法等に関して初心者を対象とした「会員向けIT研修」を開催しております。ここで紹介している研修の受講を希望される方は、本会事務局総務課までTEL又はFAXでご連絡下さい(書式は何でも結構です)。折り返し、申込み手順、申込み用紙、研修教室地図について詳細な内容を記載した「IT研修案内文書」をご希望のFAX宛に送付いたします。

東京税理士会事務局総務課 連絡先 TEL 03-3356-4461 FAX 03-3356-4469

東京税理士会会員向け

IT研修会のご案内

東京税理士会情報システム委員会

1. IT研修・研修内容及び費用

① Word 入門 全6時間

【内容】パソコン操作の基本となる文字入力、変換、文書編集、保存、印刷の基礎を習得する。

【受講の基準】日本語入力やマウスの操作も含めて、まったくパソコン操作経験のない方向けの研修(※1)

【費用】13,650円(受講料・教材費・消費税込み)

② Excel 入門 全6時間

【内容】【表計算の基本となるデータ入力、表作成、四則計算、関数計算、グラフ作成、保存などの操作を習得する。

【受講の基準】パソコンを利用して日本語入力やマウス操作はできるが、Excelなど表計算機能は経験のない方向けの研修(※1)

【費用】13,650円(受講料・教材費・消費税込み)

③ インターネット入門 全3時間

【内容】インターネットの利用方法、ホームページ検索、閲覧、電子メールの送受信方法を習得する。

【受講の基準】パソコンを利用して日本語入力やマウス操作はできるが、電子メールとインターネットは経験のない方向けの研修(※1)

【費用】10,500円(受講料・教材費・消費税込み)

④ セット講座(全4コース)

【内容】上記、① Word 入門、② Excel 入門、③ インターネット入門を組み合わせて受講し、パソコンの全般的な操作方法を習得する。

【受講の基準】① Word 入門、② Excel 入門、③ インターネット入門と同様。

【費用】A: ① Word 入門+② Excel 入門・・・25,200円
B: ① Word 入門+③ インターネット入門・・・21,000円
C: ② Excel 入門+③ インターネット入門・・・21,000円
D: ① Word 入門+② Excel 入門+③ インターネット入門・・・35,700円
(受講料・教材費・消費税込み)

※1・・・受講の基準は、目安に過ぎないので、自由にご希望の研修をお申込できます。この他にも、中野キャリアスクールによる「しっかりマスターコース」など、もっと勉強されたい方向けのコースもあります。ここで紹介している研修の受講を希望される方は、本会事務局総務課までTELまたはFAXでご連絡下さい。折り返し、申込み手順、研修教室地図等について詳細な内容を記載した「IT研修案内文書」をご希望のFAX宛に送付いたします。

2. 研修日程表及び研修場所について

① Word (6時間) コース

曜日	月・火曜日		水曜日	
時間	*1日3時間ずつ実施し、2日間(月、火)通うコースです。 17:00~20:00		*1日6時間実施するコースです。 10:00~17:00(1時間休憩)	
場所	新宿	京王八王子	新宿	
月	実施日	講座NO.	実施日	講座NO.
6月	5日・6日 19日・20日	5 6	7日	63
7月	3日・4日 10日・11日	7 8	5日	64

(ご注意) Word入門は、銀座校では実施いたしません。

② Excel (6時間) コース

曜日	水曜日	
時間	10:00~17:00(1時間休憩)	
場所	新宿	
月	実施日	講座NO.
6月	14日	103
7月	19日	104

(ご注意) Excel 入門は、新宿校のみでの実施となります。



③ インターネット (3時間) コース

曜日	水曜日		金曜日	
時間	*夕方から実施するコースです。 17:00~20:00		*午後から実施するコースです。 13:00~16:00	
場所	新宿	京王八王子	新宿	銀座
月	実施日	講座NO.	実施日	講座NO.
6月	7日 21日	— 203	9日 23日	235 236
7月	5日 12日	214 204	7日 14日	237 238